

学生生活に関する実態調査（卒業生）報告書

令和3（2021）年度

柴田学園大学

目次

I 調査の概要	1
II 調査結果	2
0. 卒業生属性	2
1. 現在の状況について	2
2. 大学生活について	4
3. 在学中の満足度について	5
4. 大学施設について	7
5. 在学中の課外活動について	8
6. 在学中の奨学金利用について	10
III まとめ	11

I 調査の概要

この調査は、柴田学園大学学生委員会により、本大学の学生の生活の様子を把握し、今後の修学や大学生活の充実を目的とした基礎資料の収集を目的として卒業後 1 年経過した卒業生を対象に実施された。

調査期間

2022 年 3 月上旬

調査方法

卒業後 1 年未満の卒業生を対象とした。実施方法は調査項目をフォームに準備し、Web 上で回答を求めた。無記名で、結果は統計的にコンピュータで処理し、個々人の結果を取り上げるのではなく、個人のプライバシーに関わるがないように配慮した。

調査内容の構成

質問内容は、次の項目である。

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 0. 卒業生属性 | 5. 在学中の課外活動について |
| 1. 現在の状況について | 6. 在学中の奨学金利用について |
| 2. 大学生活について | 7. 自由記述について |
| 3. 在学中の満足度について | * 頁の関係上、自由記述の掲載は割愛した。 |
| 4. 大学施設について | |

有効回答数

41 名（健康栄養学科 13 名、児童学科 28 名）。調査対象者の卒業時（令和 3 年 3 月）の人数は 78 名（健康栄養学科 29 名、児童学科 49 名）であったので、この有効回答数は、対象卒業生の 52.6% にあたる。

集計結果

調査の集計結果は、アンケートの質問番号の順に表示していく。また、この集計結果で算出されたパーセンテージは、数値を小数点以下 2 桁で四捨五入して表示しているため、必ずしも合計が 100.0%になるとは限らない。

II 調査結果

0. 卒業生属性

この調査に参加した卒業生の学科と性別の内訳は、下記の表に示した。

表 Q1 所属学科 Q2 性別

学科\学年	女性	男性	答えない	合計
1.健康栄養学科	13	0	0	13
2.児童学科	28	0	0	28
合計	41	0	0	41

1. 現在の状況について

このセクションでは、卒業生の現在の勤務先での状況についての質問を行った。

Q3 現在の勤務先での職種を教えてください。(該当する番号1つ記入)

選択肢	全体		健康栄養学科		児童学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1.管理栄養士・栄養士	9	22.0	9	69.2	0	0
2.教員	15	36.6	1	7.7	14	50.0
3.保育教諭	4	9.8	0	0	4	14.3
4.保育士	3	7.3	0	0	3	10.7
5.事務従事者	1	2.4	0	0	1	3.6
6.販売従事者	0	0	0	0	0	0
7.サービス業従事者	2	4.9	0	0	2	7.1
8.公務員(教員以外)	1	2.4	0	0	1	3.6
9.団体職員	1	2.4	0	0	1	3.6
10.児童指導員	1	2.4	0	0	1	3.6
11.就職・就学していない	4	9.8	3	23.1	1	3.6
合計	41	100.0	13	100.0	28	100.0

Q4 現在の勤務先の種別を教えてください。(該当する番号1つ記入)

選択肢	度数	%
1.医療・病院	5	12.2
2.福祉・介護	4	9.8
3.高等学校・高等専門学校	1	2.4
4.中学校	0	0
5.小学校	12	29.3
6.特別支援学校	1	2.4
7.大学・短期大学	0	0
8.専門学校	0	0
9.幼稚園(認定こども園以外)	1	2.4
10.保育所・園(認定こども園以外)	4	9.8
11.認定こども園	4	9.8
12.金融業	1	2.4
13.卸売業	1	2.4
14.国家公務員・地方公務員	1	2.4
15.事務職	1	2.4
16.学童	1	2.4
17.就職・就学していない	4	9.8
合計	41	100.0

現在の勤務先の状況について、教員が 15 名 (36.6%)、管理栄養士が 9 名 (22.0%)、保育教諭 4 名 (9.8%)、保育士 3 名 (7.3%)、児童指導員 1 名 (2.4%) であり、卒業時に取得した免許や資格を活かした勤務が 32 名 (78.0%) と 8 割弱であった。種別では医療・病院 (12.2%)、福祉・介護 (9.8%)、学校関係 (34.1%)、幼稚園、保育園、認定こども園など (24.4%) が約 8 割だった。一方で、就職・就学していない卒業生が約 1 割であった。卒業生についての就職支援も引き続き必要である。

2. 大学生活について

このセクションでは、在学時の生活と卒業後の生活との関係性について調査を行った。

Q5 大学時代の授業（実習・演習を含む）は、現在どの程度役に立っていると思いますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		児童学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1.とても役立っている	14	34.1	4	30.8	10	35.7
2.ある程度役立っている	23	56.1	8	61.5	15	53.6
3.あまり役立っていない	3	7.3	0	0	3	10.7
4.役立っていない	1	2.4	1	7.7	0	0
合計	41	100.0	13	100.0	28	100.0

大学時代の授業について、約9割（37名）が役立っていると回答した。両学科の差はほとんど見られなかった。

Q6 在学中にもっと高めておけば良かったと思う力や、身につけておきたかった力についてお答えください。（複数回答可）

選択肢	度数	%	累積%
18.パソコンを使う力	15	10.9	10.9
9.ストレスコントロール力	14	10.2	21.1
12.計画力	10	7.3	28.4
1.主体性	9	6.6	35.0
6.柔軟性	9	6.6	41.6
7.状況把握力	9	6.6	48.2
3.実行力	7	5.1	53.3
11.課題解決力	7	5.1	58.4
14.一般的な教養	7	5.1	63.5
21.リーダーシップ力	6	4.4	67.9
4.発信力	5	3.6	71.5
13.想像力	5	3.6	75.1
15.専門的知識	5	3.6	78.7
16.英語等の語学力	4	2.9	81.6
17.最後までやりとげる力	4	2.9	84.5
19.プレゼンテーション能力	4	2.9	87.4
22.資格の取得	4	2.9	90.3
2.働きかけ力	3	2.2	92.5
5.傾聴力	3	2.2	94.7
10.課題発見力	3	2.2	96.9
20.ディベート能力	2	1.5	98.4
8.規律性	1	0.7	99.1
23.ライフワークバランス	1	0.7	100.0
合計	137	100.0	

* 項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

在学中に高めておきたかった力について、パソコンを使う力 15名（10.9%）、ストレスコントロール力 14名（10.2%）、計画力 10名（7.3%）などがあげられた。

3. 在学中の満足度について

このセクションでは、在学中の満足度について、教育内容、学生生活の支援、設備等の面から調査を行った。

Q7 教育内容（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		児童学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1.満足している	14	34.1	7	53.8	7	25.0
2.やや満足している	19	46.3	4	30.5	15	53.6
3.どちらともいえない	5	12.2	0	0	5	17.9
4.やや不満である	2	4.9	1	7.7	1	3.6
5.不満である	1	2.4	1	7.7	0	0.0
合計	41	100.0	13	100.0	28	100.0

所属していた学科の教育内容について、「満足している」が14名（34.1%）、「やや満足している」が19名（46.3%）であった。このように所属していた学科に対し、「満足している」「やや満足している」とする回答を合わせた割合は全体の80.4%であった。一方、「やや不満である」が2名（4.9%）、「不満である」が1名（2.4%）いた。今回の結果から、教育内容に大きな問題はないが、満足度をあげていくための対策は必要であろう。

学科別の満足度をみたところ、健康栄養学科と児童学科において若干の差は見られるが大きな問題はない。

Q8 学生生活に対する支援（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		児童学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1.満足している	14	34.1	4	30.8	10	35.7
2.やや満足している	13	31.7	6	46.2	7	25.0
3.どちらともいえない	10	24.4	3	23.1	7	25.0
4.やや不満である	3	7.3	0	0.0	3	10.7
5.不満である	1	2.4	0	0.0	1	3.6
合計	41	100.0	13	100.0	28	100.0

学生生活に対する支援について、「満足している」が14名（34.1%）、「やや満足している」が13名（31.7%）であった。このように「満足している」「やや満足している」とする回答を合わせた割合は全体の65.8%であった。一方、「やや不満である」が3名（7.3%）、「不満である」が1名（2.4%）と全体の約1割が支援に対し不満があることがわかった。この回答は何れも児童学科の卒業生である。「どちらともいえない」が10名（24.4%）であったことから、支援の内容により満足度に差があることが予想される。この点については今後詳細に調べるなど満足度をあげるための対策は必要であろう。

Q9 就職支援・キャリア形成支援（該当する番号1つ記入）

就職・キャリア支援について、「満足している」が15名（36.6%）、「やや満足している」が15名（36.6%）で、「満足している」「やや満足している」とする回答を合わせた割合は全体の73.2%

であった。一方、「やや不満である」が3名（7.3%）、「不満である」が2名（4.9%）と全体の約1割強が支援に対し不満があることがわかった。このことから、早期離職など職業の選択にミスマッチがないよう支援が必要である。

選択肢	全体		健康栄養学科		児童学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1.満足している	15	36.6	5	38.5	10	35.7
2.やや満足している	15	36.6	3	23.1	12	42.9
3.どちらともいえない	6	14.6	3	23.1	3	10.7
4.やや不満である	3	7.3	1	7.7	2	7.1
5.不満である	2	4.9	1	7.7	1	3.6
合計	41	100.0	13	100.0	28	100.0

4. 大学施設について

図書館の環境について、「満足している」が20名(48.8%)、「やや満足している」が12名(29.3%)で、「満足している」「やや満足している」とする回答を合わせた割合は全体の78.1%であった。

コンピュータ室の環境について、「満足している」が7名(17.1%)、「やや満足している」が19名(46.3%)で、「満足している」「やや満足している」とする回答を合わせた割合は全体の63.4%であった。一方、「やや不満である」が9名(22.0%)、「不満である」が2名(4.9%)と全体の約3割弱が不満であることがわかった。満足度をあげるための支援策について検討する必要がある。

Q10 図書館の環境 (該当する番号1つ記入)

選択肢	全体		健康栄養学科		児童学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1.満足している	20	48.8	5	38.5	15	53.6
2.やや満足している	12	29.3	5	38.5	7	25.0
3.どちらともいえない	8	19.5	3	23.1	5	17.9
4.やや不満である	1	2.4	0	0.0	1	3.6
5.不満である	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	41	100.0	13	100.0	28	100.0

Q11 コンピュータ室の環境 (該当する番号1つ記入)

選択肢	全体		健康栄養学科		児童学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1.満足している	7	17.1	1	7.7	6	21.4
2.やや満足している	19	46.3	7	53.8	12	42.9
3.どちらともいえない	4	9.8	1	7.7	3	10.7
4.やや不満である	9	22.0	3	23.1	6	21.4
5.不満である	2	4.9	1	7.7	1	3.6
合計	41	100.0	13	100.0	28	100.0

Q12 その他大学の施設・設備 (該当する番号1つ記入)

選択肢	全体		健康栄養学科		児童学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1.満足している	7	17.1	1	7.7	6	21.4
2.やや満足している	13	31.7	4	30.8	9	32.1
3.どちらともいえない	12	29.3	7	53.8	5	17.9
4.やや不満である	7	17.1	0	0.0	7	25.0
5.不満である	2	4.9	1	7.7	1	3.6
合計	41	100.0	13	100.0	28	100.0

その他大学の施設・設備について、「満足している」が7名(17.1%)、「やや満足している」が13名(31.7%)であった。このように「満足している」「やや満足している」とする回答を合わせた割合は全体の5割弱であった。一方、「やや不満である」が7名(17.1%)、「不満である」が2名(4.9%)と全体の2割強が不満であることがわかった。「どちらともいえない」が12名(29.3%)であったことから、今後詳細について調べるなど満足度をあげるための対策は必要であろう。

5. 在学中の課外活動について

このセクションでは、在学中の部活動やボランティアなど課外活動について調査を行った。

Q13 在学中に部活動や学友会活動を行っていましたか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%
1.はい	28	68.3
2.いいえ	13	31.7
合計	41	100.0

Q14 Q13 ではいと答えた人に聞きます。何に所属していましたか？（複数回答可）

選択肢	度数	%
1.体育部	8	20.0
2.文化部	17	42.5
3.学友会・実行委員会	15	37.5
合計	40	100.0

在学中に部活動や学友会活動を行っていた人は28名（68.3%）で、そのうち、体育部が2割、文化部が4割強、学友会・実行委員会が4割弱で延べ40名だった。このことから、2つ以上の活動を掛け持ちしていることがわかった。

Q15 部活動や学友会活動は、現在どの程度役立っていると思いますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%
1.とても役立っている	4	14.3
2.ある程度役立っている	19	67.9
3.あまり役立っていない	3	10.7
4.役立っていない	2	7.1
合計	28	100.0

Q16 それはどんな場面ですか？よろしければ教えてください。

- ・ 協調性が必要な場面
- ・ 絵本読み聞かせ、お遊戯会
- ・ 人前に立つ場面
- ・ 行事
- ・ リーダーシップ、周りを動かす
- ・ 行事の準備等で、運営をする場面
- ・ やるべき仕事が多い時、周りの人の協力を得ながら達成すること。
- ・ 会場設営など裏方で動く場面
- ・ 人と共通点を見つけたり、自己紹介などで活用できた。
- ・ 子どもの話の聞き方や、話していることをまとめる力があると上司に褒めていただけた
- ・ 部活指導や行事へ向けての準備
- ・ 力仕事を積極的に行ったり、少人数チームで何かをするときの役割分担をテキパキと決め、進めることができた。
- ・ 行事食の内容を提案する場面
- ・ 所作、立ち振舞などを褒められることがある

在学時の部活動・学友会活動について、「とても役立っている」が4名（14.3%）、「ある程度役立っている」が19名（67.9%）であった。このように「役立っている」と回答した割合は全体の

8割を超えている。またその内容について、具体的な記載が14件あった。このことから、在学時に経験した課外活動が有益であることがわかった。

Q17 在学中にボランティア活動を行っていましたか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%
1.はい	18	43.9
2.いいえ	23	56.1
合計	41	100.0

Q18 Q17ではいと答えた人に聞きます。どんな活動を行っていましたか？（複数回答可）

選択肢	度数	%
2.子どもや青少年を対象とした活動(学校行事の手伝い、レクリエーション活動など)	14	48.3
1.高齢者・障がい者を対象とした活動(福祉施設での手伝い、見守り活動など)	7	24.1
6.各種イベント等の運営スタッフの活動(地域のイベントなど)	7	24.1
3.災害で被災した方を支援する活動(物資仕分け、募金活動など)	1	3.4
4.自然や環境を守るための活動(地域の清掃活動、リサイクル活動など)	0	0.0
5.安心・安全なまちづくりの活動(交通安全活動、防災活動、防犯活動など)	0	0.0
7.国際交流・国際協力活動(発展途上国への支援など)	0	0.0
8.その他	0	0.0
合計	29	100.0

* 項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

在学中にボランティア活動を行っていた人は18名(43.9%)で、そのうち、子どもや高齢者、障がいのある方を対象とした活動、地域のイベントの運営スタッフが9割以上(28名)だった。また、これらの活動は2つ以上、掛け持ちをしていることがわかった。

Q19 ボランティア活動は、現在どの程度役立っていると思いますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%
1.とても役立っている	4	22.2
2.ある程度役立っている	9	50.0
3.あまり役立っていない	5	27.8
4.役立っていない	0	0.0
合計	18	100.0

Q20 それはどんな場面ですか？よろしければ教えてください。

- ・絵本読み聞かせ
- ・子供との交流
- ・絵本の読み聞かせをする場面で、ボランティアでもやっていたので、注目のさせ方や読み方などが役に立ったと思います
- ・経験したことを、具体例として提示する場面
- ・障がいのある子と関わる仕事なので、子どもの課題を多方面から考えられます

在学時のボランティア活動について、「とても役立っている」が4名(22.2%)、「ある程度役立っている」が9名(50%)であった。このように「役立っている」と回答した割合は全体の7割強である。またその内容について、具体的な記載が5件あった。このことから、在学時に経験したボランティア活動が有益であることがわかった。

6. 在学中の奨学金利用について

このセクションでは、在学中の奨学金の利用状況について調査を行った。

Q21 在学中に利用していた奨学金について（複数回答可）

選択肢	度数	%
1.利用していない	11	21.2
2.日本学生支援機構 第一種貸与奨学金	19	36.5
3.日本学生支援機構 第二種貸与奨学金	16	30.8
4.日本学生支援機構 給付奨学金	3	5.8
5.柴田学園奨学金	1	1.9
6.青森県保育士修学支援制度	2	3.8
7.秋田県保育士修学支援制度	0	0
その他	0	0
合計	52	100.0

奨学金を利用していた人は41名中30名（73.2%）と全体の7割を超えていた。その奨学金のうち学生支援機構の奨学金が最も多く、第1種、第2種、給付を利用した人は利用者30名中38件で、複数の奨学金を利用していることがわかった。

Q22 卒業生として、今後の柴田学園大学に期待すること、ご意見・ご要望などがあれば、お聞かせください。また、大学への通信欄としてもご自由にご記入ください。（自由記述）

最後に、意見・要望など自由に記述をしてもらったところ、9件（22.0%）の記述があった。

III まとめ

「1. 現在の状況について」「2. 大学生活について」「3. 在学中の満足度について」「4. 大学施設について」「5. 在学中の課外活動について」「6. 在学中の奨学金利用について」の質問内容別の要約をする。最後に、これらの令和3年度の学生生活に関する実態調査（卒業生）の結果より考えられる、本学学生が卒業して約1年後の状況の特色をまとめ、今後の課題について述べる。

①質問内容別の要約

1. 現在の状況について

卒業時に取得した免許資格を活かした勤務が約8割だった。一方で就職も就学もしていない卒業生がおり、卒業後1年未満で何らかの理由により離職していることがわかった。

2. 大学生活について

在学時の授業が、卒業後「役立っている」と約9割が回答した。1. の設問で回答しているように、8割の卒業生が学科の専門性を活かした職業についていることとの関連が見られる。在学中にもっと高めておけば良かったと思う力は、「パソコンを使う力」「ストレスコントロール力」が挙げられ、現在の生活で何らかの不便を感じていることがうかがえる。

3. 在学中の満足度について

所属していた学科の教育内容について、約8割が満足していた。また、学生生活に対する支援については、約6割強が満足と考えているが、「不満」や「どちらともいえない」人が3割以上いることから支援の種類や内容によっては不満があったと予想される。

就職・キャリア支援について、7割強が満足と回答した。1割は不満があると回答し、7. 自由記述で「先輩方の現在の勤務や仕事内容などをもっと詳しく知った上で就活をしたかった」と記載しており不満の理由の一つと考えられる。新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりOGと接触する機会が減少したことも原因の一つと言える。今後はオンラインや動画などWebを活用した就職支援も必要である。

4. 大学施設について

図書館の環境について7割強が、コンピュータ室について6割強、その他大学施設について5割弱が満足と回答している。今後詳細について調べ満足度を上げるための対策が必要である。

5. 在学中の課外活動について

在学中に部活動や学友会活動などの活動に参加していた学生（68.3%）の8割強が、卒業後の生活で役立っていると回答している。具体的に、「協調性」「リーダーシップ」「運営」「所作」などがあげられた。ボランティア活動では「子どもとの交流」「絵本の読み聞かせ」など、現在の仕事内容と直接関連がある活動で特に有効であるといえる。

6. 在学中の奨学金利用について

回答者の7割が奨学金を利用していた。複数の奨学金を利用している人が多いが、今後は返還状況や苦慮を感じていないかなど詳細を調べる必要がある。

②最後に

本学の学生の特徴は、資格免許など学科の専門性を活かした職業に就いていることと就職率の高さと離職率の低さである。卒業して1年後、約9割が就職していることがわかり、離職率は低い傾向にある。これは「2.大学生活について」の結果で、大学時の学びが卒業後に活かされていることや教育内容の満足度が高いこととも関連している。本学の教育目的を反映した3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）が適切に運用されていることが予想される。

学生生活や就職支援の満足度では肯定でも否定でもない回答が多く、何かしらの問題点があることが予測される。このことについては今後詳細に調査する必要がある。

在学中の課外活動について肯定的な意見が多く、本学が長年培ってきた学友会役員が中心となり諸行事を運営する実践活動がキャリア形成の一助となっていることがうかがえる。今後も学生を中心とした活動に対する教職員の助言、指導による適切な支援を継続する。

卒業生の現状と在学時の状況について詳細に知るために、回答しやすい期間の設定や質問内容の充実など、実態調査全体の改善を図り、学生支援の有効な資料となるよう努めて行きたい。

学生生活に関する実態調査（卒業生）報告書

令和3（2021）年度

令和4年5月1日発行

編集：柴田学園大学 学生委員会・学生課

発行：柴田学園大学出版会

〒036-8530 青森県弘前市清原1丁目1-16

TEL 0172-33-2289

FAX 0172-33-2486

<https://univ.shibata.ac.jp>